

SDGs の取り組みについて

○SDGs ってなあに？



幼稚園型認定こども園 恵光東俣幼稚園

近年よく耳にする「SDGs」「サステナブル」という言葉。しかし、よくわからないというのが本音ではないでしょうか。一方で「子どもたちの未来に関係すること」となると、気になりますよね。

SDGsは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略。わかりやすく言うと、地球を守るために、国連が「2030年までにやるべき」と定めた世界共通の17の目標をさします。外務省や国連広報センターの公式HPで、誰でもその具体的な内容を知ることができますが、地球全体のグローバルな目標であるがゆえに、「私たちの家庭には、あまり関係ないのでは？」と感じてしまいがちです。

「なぜ SDGs ができたのか」背景をみると...

今までのライフスタイルを続けていくと、近い将来、地球が続かなくなる可能性があるのです。気候変動、環境破壊、人口増加、貧困などの問題が大きくなり、このままでは地球で生き物が豊かに暮らし続けることができなくなる危惧が、いよいよ本格的なものになりました。

そこで、「環境・社会・経済の3つの観点から、この世の中を持続可能にしていく」という考えのもと、世界中のみんなで取り組むべき目標=SDGsが発足したのです。

SDGsの目標達成時期は2030年。つまり、子どもたちの幸せな未来を守るためには、この10年がとても大切。どこかのイチ企業が頑張るだけでは追いつかず、世界中の一人一人ができることをしないと地球が危なくなります。

○世界共通の17の目標



1 貧困をなくそう



経済的な問題だけでなく、教育や社会的な差別など、さまざまな「貧困」に対して、2030 年までに解決しようという目標です。日本でも子どもの貧困などが問題になっており、途上国のみならず、先進国の中でも問題が表面化しています。

2 飢餓をゼロに



貧困にも関連付けられますが、世界各地で食料供給の問題があります。2020/21 年度の世界の穀物生産量は適量で、少しだけ消費量が上回る見通しですが、これが続くと慢性的な食料不足になる恐れがあります。飢餓に苦しむ主な原因は、土地の悪化や気候変動の影響で生産量が不足していることです。この課題を克服するため、国際社会が連携し最新の技術を使うことで持続可能な農業を行い、安心・安全な食料の確保と十分な栄養摂取ができるようにすることを目指しています。

3 すべての人に健康と福祉を



日本ではあまり見かけなくなりましたが、世界では HIV やマラリア、結核など感染症がまん延し、命を落とすことが少なくありません。現在のコロナもそうですが、すべての人が適切な医療サービスを受けられ、医療格差がなくなることを目指します。

4 質の高い教育をみんなに



世界中の問題や SDGs で提唱している「持続可能な社会」を実現するためにも、質の高い教育が必要です。また国や地域によって教育の格差が生まれることがないように、すべての人が平等で公正質の高い教育を受けられる機会を作ることを目指しています。

5 ジェンダー平等を実現しよう



これまでの風習や宗教などにより、女性に対して教育や社会参加の機会が制限されることが多くありました。これからの持続可能な社会を実現するためにも、政治や意思決定の場で女性の能力が十分発揮できるような環境を作り、性差別のないようより良い社会を目指しています。

6 安全な水とトイレを世界に



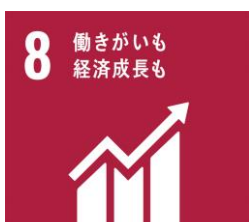
世界では、安全な水と衛生的なトイレが整備されていない地域が多くあります。不衛生なために伝染病などにかかり、命を落とすことも少なくないのです。整備が進まない原因として、地域の特性などありますが、一番は経済的なところが大きいです。今も苦しむ地域に対し、世界が連携して経済的な支援やインフラの整備を進め、水とトイレの格差をなくすことを目指しています。

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに



人口が増え、生活が豊かになるにつれ、必要なエネルギー量は増大しています。その結果、エネルギー資源の高騰や供給が追いつかなくなることが懸念されています。供給不足にならないためにも、新しいエネルギー源を開発し、安値・安全で持続可能なエネルギーを全ての人に供給できるようにすることを目指しています。

8 働きがいも経済成長も



経済活動には、一人ひとりの働きが重要です。人々の健康や収入、教育などを保障し、働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)暮らしを持続的に行えることを目指しています。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



これまでの世界の発展は、新しい技術開発とイノベーションによって成し遂げてきました。これからの「誰一人取り残さない」社会にするためには、持続可能で災害にも強いインフラを整備することが必要です。技術開発やイノベーションを支援し、環境にやさしい持続可能な産業をつくることを目指しています。

10 人や国の不平等をなくそう



年齢や性別、障がいや人種や宗教などで差別が生まれ、国や地域間で問題が大きくなることがあります。また先進国と発展途上国には明確な経済格差があり、国際社会での発言力が弱まることが危惧されています。このような不平等をなくし、全ての人々が、社会的、経済的、政治的な平等な社会を目指しています。

11 住み続けられるまちづくりを



大部分の人が住む地域は、お店もあり交通も発達している都市部に集中しています。都市部ではあらゆるサービスが受けられる一方、経済的に貧困に陥り、安全面や環境面で不安な立場に置かれている人が多くいます。障がいや経済的に弱い立場の人が取り残されないよう生活インフラとサービスを整備し、持続可能な都市や安心・安全な居住を実現することを目指しています。

12 つくる責任 つかう責任



生産過剰による大量の食料廃棄が問題になる一方、食糧難で満足に食べることができない地域があります。またペットボトルやビニールなどの生活ゴミなどからマイクロプラスチックのような物質が生まれ、環境汚染を引き起こし、生態系を脅かす原因となっています。作る側は適切な資源で適切な量を生産し、使う側は適切に処理するよう心がけ行動をおこすことを目指しています。

13 気候変動に具体的な対策を



地球温暖化にともない、海面水位の上昇や異常気象の発生など、環境の問題が増えてきています。地震や津波、台風や洪水による被害額は年平均で数千億ドルにのぼり、被害リスク管理への投資だけでも、毎年60億ドルの投資が必要と言われています。

災害は世界中どこでも起こり得ることです。すべての人が互いに協力し、災害に強い対策を講じることを目指しています。

14 海の豊かさを守ろう



生活ゴミにより、海洋環境が悪化していることが問題となっています。気候変動や海洋資源の乱獲により、生態系が崩壊する危険にさらされています。生物多様性を守るためにも、海洋資源を適切に管理し、持続可能な形で利用することを目指しています。

15 陸の豊かさを守ろう



食料は陸で作られているものが多いですが、気候変動による干ばつなどの影響で年々耕作地が減少しています。干ばつや砂漠化は私たちの生態系も脅かし、絶滅の危険にさらされている生物もあります。生物多様性を守り食料や資源を安定して供給できるよう、森林や耕作地の持続可能な管理と自然環境の回復を推進することを目指しています。

16 平和と公正をすべての人に



持続可能な社会を目指す上で、平和と安定、人権と法の支配は重要です。不安定な社会は不利益を生み出し、人々の間に溝を作ることになります。安定した社会を持続するために平和で包摂的な社会を促進し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築することを目指しています。

17 パートナーシップで目標を達成しよう。



あらゆる目標を達成するためには、人々の協力は欠かせません。持続可能な社会を構築するため、パートナーシップをより強固にし、世界が団結して目標に向かって行くことを目指しています。

17の目標のなかで、幼稚園やそれぞれの家庭で何ができるのかを考えて、取り組んでいきましょう。